

川内 大底川銀次郎沢

棚橋

【日時】 2010年7月17日(土)～19日(月)

【メンバー】L棚橋、佐貫、横山、大野

近年、大底川の計画を何度出したことだろう。悪天候のため、中止や転進を繰り返してきた。今回も初日の天気はやや不安定であるが、漸く臨むことが叶った。

7月17日 晴れのち雨

蛭害の心配の無い所で仮眠の後、チャレンジランド杉川に車を走らせる。そして車を駐車させて頂いた後、出発する。木六山への登山道を過ぎてから大底川出合までは踏み跡を辿るが、前にも来たこともあるので判りづらい所も何とか迷わず進む。しかし今回も吊橋跡に下りる所がよく判らず、探すことより懸垂下降を選択した。下りると大底川の出合付近に遡行者がおり、バッシングするかなと気を揉んだが杉川に向かったようだ。

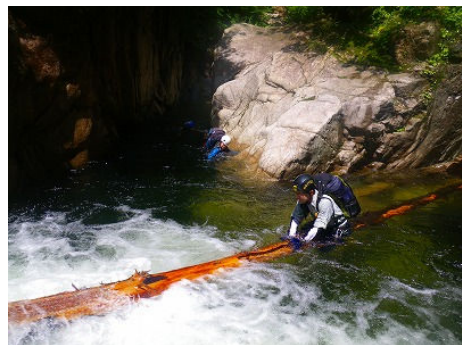
大底川はゴルジュがかなり発達しており、期待通りの溪相である。3m滝を右の滑り台状から越えると赤花沢に出合う。赤花沢は昨年遡行した。その後も圧倒的な溪相で、入る支沢は全て滝になっている。

これからの天候悪化を鑑み、11:30とかなり早目ではあるが岩宿沢出合付近を幕とする。泊りの準備も全て整った14:30頃、ポツポツと降り出したかと思ったらバケツをひっくり返したような大雨。しかし高台に幕場を設けているので安心だ。一時間も降り続いた後、大底川を見に行くとコーヒー牛乳色の濁流で水面が2～3mは上昇していた。

7月18日 晴れ

朝起きて、沢の様子を確認するとほぼ平水に戻っており、濁りも殆ど見られない。増水も早かったが、引くのも早い。

ハンタン沢、コザマタ沢を分けると釜を従えたCS滝が現れ、ショルダーで越える。その先のCS滝は、倒木を利用して滝に取り付いた後越える。その後もへつったりショルダーを駆使したりして何とか越えていく。日も当たらない上、水にも浸かりっ放しだったので体も冷え切り、七郎平沢出合で漸く日向ぼっこをしながら休憩とする。



倒木を利用して滝に取り付く

切松沢を過ぎると兩岸にスラブが現れ出し、その先にはスノーブリッジが架かっている。足早に潜り過ぎると、いよいよ登れない10m滝が行く手を遮る。右岸から先の見えない大高巻きをするか、左岸のルンゼから微妙なルートを取るか迷ったが、結局後者を選択した。2時間以上も木登り等行った後、先にスノーブリッジが続く手前を懸垂下降30mにて沢へと下り立つ。



水流は強い

スノーブリッジ奥には登れない滝が架かっているのので、左岸の口の開いている所よりロープを出して微妙な右壁を登り、スノーブリッジ上へと上がる。末端で沢に下りると、またしても登れない10m滝が現れ、右岸側の泥壁にルートを取る。大野君が「落ちるかもしれないので」との言葉を残してロープを引いてリード。無事登り切ったがフォローでもかなり厳しく、最悪の泥壁だった。



ゴルジュの発達は見事

その先の淵の先にも上れない8m滝が架かっており、右岸から巻くことにする。ここも大高巻きは必至の上、時刻も16時半を過ぎていたので水を目一杯汲むことにする。空身で佐貫が登った後、大野君が更にロープを1ピッチ伸ばす。その後もトラバースを続けながら下部の様子を伺うが、安心して寝られそうな場所は皆無である。漸くルンゼの中段に何とか座れそうな場所を見出すことができ、ここで長い1日の行動を終了とした。焚き火は無理であったが何とか全員で食事を取ることは叶った。そして各々、横になれる場所を確保した。

7月19日 晴れ

幸い天気が崩れなかったこともあり、何とか皆睡眠は取れたようだ。先に見えるム沢には雪渓が詰まっていることもあり、ここから銀次郎沢までトラバースした後、そのままエスケープすることにする。

1時間ほどで銀次郎沢に下り立ち、そのまま銀次郎山に向かう。途中の三俣にて最も登りやすい左俣を取り、スラブ状を登ると銀次郎山の少し下の登山道へと出た。

登山道は木々が日差しを遮ってくれ、大いに助けられたが、蛭害は尋常ではなかった。

ム沢を詰めることは叶わなかったが、大底川のゴルジュは十分満喫できた。また機会があれば、改めてその先も詰めてみたい。



【グレード】 4級

【行程】

7/17 上杉川(7:45)～大底川出合(9:10/40)～赤花沢出合(10:20)～岩宿沢出合 C 1
(11:25)

7/18 C 1 (5:47)～コザマタ沢出合(6:05)～七郎平沢出合(8:45/9:15)～SB先巻始地点
(10:00)～懸垂下降終了(13:20)～銀次郎沢手前支沢 C 2 (18:30)

7/19 C 2 (6:00)～銀次郎沢(7:10)～銀次郎山手前(9:55/10:10)～上杉川(12:30)

【地図】 高石、室谷

